



イスラム過激派組織のテロと 北朝鮮特殊部隊等のテロ・ゲリラ

2017年12月

軍事アナリスト（軍事・情報戦略研究所長） 西村金一

パワーポイント資料により説明します

1. イスラム過激派組織のテロの教訓

日本国内においても、イスラム過激派組織によるテロの可能性が出てきた。これらのテロに対処するためには、これまで世界で起きたテロの実態から見えてくる教訓を知ることと、今後発生する可能性があるテロ、特に武器の性能を知る必要がある。

(1) 新たなテロ脅威の特色は

テロの様相が変化している

- 戦場で起きていることが、平和な都市で起きている
- 今風に言うと、戦場場面を切り取って
 - ・平和的な都市にコピペしているようなもの
 - ・そこで、テロリスト達が、無防備な人々に乱射している
- ISは、高度な軍事戦略を駆使している
- ひとたびテロが発生すると、治安機関が出動する前に、多くの被害が発生する

(2) 過去のテロ事案の問題点と教訓

—参考になる5つ事案の分析—

- ① 1996年、在ペルー日本大使公邸占拠事件
- ② 2013年、アルジェリア天然ガス施設襲撃事件
- ③ 2015年、パリ「シャルリー・エブド」社襲撃事件
- ④ 2015年、チュニジア、バルド国立博物館襲撃事件
- ⑤ 2015年、パリ同時多発テロ事件

⑥ 2016年、ベルリントラックテロ事件

(3) 今後予想される IS の新たな脅威は

今後、IS は、保有する兵器の中から日本に持ち込める兵器を使用して、テロを実行する可能性がある。IS は、対戦車ロケットや携帯地对空ミサイルを所有しており、日本にも持ち込むことが可能だ。

IS が保有する兵器の中から、日本に持ち込める兵器を使用すると

- 数個戦闘チームを編成

- 対戦車ロケット、対戦車ミサイルを使用したテロ

- 携帯地对空ミサイルによるテロ

- 化学剤（サリン、VX ガス、マスタードガス）散布によるテロ

参考資料：

- ①『自衛隊は IS の脅威とどう戦うのか』-イスラム過激派の軍事的脅威にどう立ち向かうか（祥伝社）
- ②IS は将来、日本でどのようなテロを起こすのか（その1）（その2）2016年4月号、2016年5月号

2. 北朝鮮軍特殊部隊と工作員

テロの脅威は、主にイスラム過激派組織によるものがほとんどだと考えていたが、北朝鮮の核・ミサイルの開発によって、北朝鮮と米国の緊張状態が高まってきた。もし、米軍が北朝鮮に対して、金正恩殺害作戦やミサイル攻撃を行う事態になると、日本に対して、弾道ミサイル攻撃の他に、特殊部隊等による潜入と襲撃の可能性が高くなる。そのため、北朝鮮の軍事力と特殊部隊について簡単に解説する。

(1) 旧式兵器と近代的兵器で戦うとどのような様相になるのか

- ・空軍が戦うとどうなるか？

空対空ミサイルを使用したドッグファイト

- ・海軍が戦うとどうなるか

北朝鮮の軍艦がどれほど古いのか？

北朝鮮の軍艦が戦うとどうなるのか？

北朝鮮海軍は、どんな作戦で戦うのか？

(2) 地上軍の攻撃能力は

地上軍の長射程砲やロケット攻撃は、どうなるのか

(3) 日本への特殊部隊の作戦

日本・韓国で工作（テロ）を行うのは、作戦部と特殊部隊

どうやって来るのか。日本への潜入要領は、いくつかある

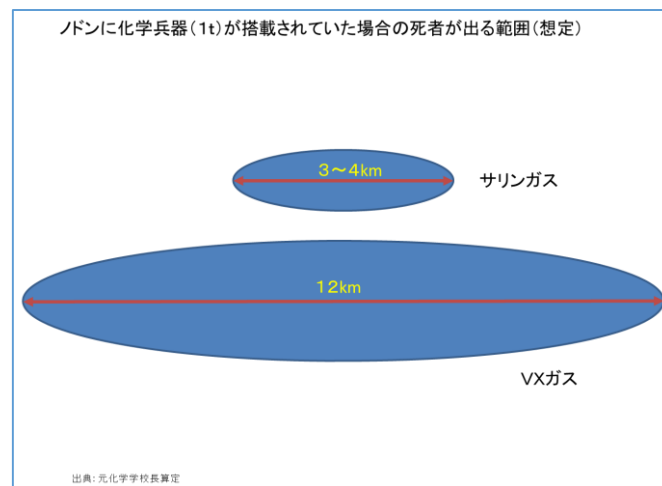
日本への潜入後は、何をするのか

化学兵器で攻撃すると

使用される可能性があるマスタードとは、どのようなものか

弾道ミサイルに化学兵器が搭載されていた場合の被害

パワーポイントの例



まとめ

参考資料：「詳解 北朝鮮の実態」(原書房)

「自衛隊はI Sのテロとどう戦うのか」(祥伝社)